

あなたの商品、ブランドの意思（思い）を運ぶ  
パッケージ／貼り箱のご提案

意思を  
運ぶ箱。



村上紙器工業所 オリジナルパッケージ（貼箱）  
urakami hand made box 企画・製造

〒557-0013 大阪市西成区天神ノ森1-19-8  
TEL.06-6653-1225 FAX.06-6653-1925 URL:<http://www.hakoya.biz/>

# あなたの商品、ブランドの意思（思い）を、私たちの作る貼り箱が運びます。 貼り箱は（パッケージ）は、商品価値とブランドイメージを届ける存在。

商品パッケージは、単なる包装資材ではありません。

商品パッケージ／デザインの機能的価値は、包装資材として商品を「包む」「保護する」「運ぶことです。

しかし情緒的価値としては、「ブランド価値（コンセプト）を伝える」「ブランドと顧客／消費者をつなぐ」「ブランドの大切なコンタクトポイント／タッチポイント」というブランドコミュニケーションです。

それは長期視点でみて、貴社にとってのブランド資産となります。

つまり、目には見えないブランド・エクイティ（ブランドの持つ資産価値）なのです。



# ユーザーが、化粧箱を開けるときにどう感じるのか？

## iPhone 箱 = 高級パッケージの代表？

お客様からよくご相談があるのは「iPhone の箱みたいなパッケージをつくりたい」というものです。iPhone 箱は、「カッコいい、高級感がある」というイメージがあるようです。

アップルは、iPod、iPhone、Mac、Macbook など高価な電子機器製品と同じくらい、製品パッケージのことを考えてデザイン&製作をしています。アップル社内には、「箱の開封 (Unboxing)」を考える専門の部署があり、パッケージング (パッケージ) デザイナーが日々パッケージのことを考えています。一般的にパッケージデザインというと、パッケージの形状 (構造) やビジュアルなどが中心ですがアップルではそれだけにとどまりません。

## 人は箱を開けるとき、どう感じるか？

開封体験を含めたパッケージデザインは、ブランドイメージを売っています。

製品パッケージに触れ、その箱を開けるときにユーザーがどう感じるか？箱を手に取り開ける瞬間からワクワクする感情が湧き上がってくるには、どんなパッケージが必要かを徹底的に考えます。

そして、この開封体験を含めた全体のパッケージデザインは、製品のみならずブランド・イメージそのものを売っているのです。普通デザイナーは、プロダクト (製品) については徹底的に考えますが、そのパッケージについて外観ではなく開封体験について深く考えることはありません。アップルは、製品パッケージに対しての視点が他のメーカーとは根本的に違うのです。

彼らにとってのパッケージング (パッケージ) デザインとは、見た目だけではなくユーザー体験 (UX : User Experience) つまり箱を開封するときにユーザーが感じるイメージや感動、ワクワクする期待感をデザインします。ここまで、パッケージのことを考えるメーカーは他にありません。このためにアップルは膨大な時間と手間、そして予算を投資しています。アップルにとって製品パッケージは、包装資材という「コスト」ではないのです。それは、スティーブ・ジョブズがそこまで考えてパッケージをデザインしたことに他なりません。

# 会社案内

## “パッケージの意味をデザインする”

### 私たちのミッション

パッケージ／貼り箱の力で、ブランドコミュニケーション（ブランドの本質を顧客に伝え、ブランドイメージを定着させていくこと）をデザインするという顧客価値の提供。

企業ブランドの顧客接点（タッチポイント／コンタクトポイント）の中で、パッケージは重要なコミュニケーションの一つです。

これによってパッケージは、コストとしてただ消耗されるだけでなく、ブランド資産として積み重なっていく存在となります。

**村上紙器工業所**  
urakami hand made box

事業所名：村上紙器工業所

所在地：大阪府大阪市西成区天神ノ森1丁目19-8

TEL：06-6653-1225

代表：村上 誠

HP：<https://www.hakoya.biz/>

E-mail（代表）：[info@hakoya.biz](mailto:info@hakoya.biz)

事業概要：自動化ラインでは出来ない、人の手によってディテールを作り込んだ貼り箱の企画・製造販売。

# こんなお悩みやご相談はありませんか？

- ・新企画として、商品パッケージはどうすればいいの？
- ・パッケージの企画費や全体予算がいくらかわからない。
- ・ブランド・リニューアルで、経営戦略としてパッケージデザインを刷新したい。
- ・商品は完成したけど、どんなパッケージデザインにすればいいの？
- ・商品ブランドを魅力的にできるパッケージについて、相談できるパートナーが欲しい。

村上紙器工業所は、単なる包装／梱包資材としての「パッケージ／化粧箱」としてだけでなく、ブランディングやマーケティングの視点のパッケージ「貼り箱」のご提案をさせていただきます。

パッケージを包装資材というコストと考えると、単に「経営的な数字」にみえます。

しかしブランドイメージを伝えるための投資と考えると、ブランディング／コミュニケーションに価値転換されるのです。コストになるといくら抑えても消耗／消費されて終わりですが、ブランド資産として価値転換されると、そのすべてが積み重なっていきます。その積み重ねがあってはじめて、ブランドになりファンが生まれるのです。



# 村上紙器工業所がお悩みを解決できること

## (1) 特別な価値提供での課題解決

私たちは製造業（ものづくり）ですが、「パッケージによって、ブランドイメージを届ける」という、あなたの企業／ブランドの課題解決、ソリューションを提供します。貼り箱のクオリティだけでなく、お客様のブランドイメージ／特別感を届けるパッケージ。

# 意思を 運ぶ箱。

## (2) 見た目だけのデザインではない

単に貼り箱の色や形など見た目の外観デザインではなく、「そのブランドにとって何が大切なのか？」「パッケージを使った、どういうブランドコミュニケーションがいいのか？」、ブランディング視点でお客様のヒアリングからパッケージデザインを導き出します。

## (3) 形状や素材、内装部分の提案

貼り箱の特徴は本来、素材（紙など）自体の質感（素材感）を活かすのが基本です。お客様へのヒアリングから、最適な素材選びからパッケージデザインをご提案します。最終的に商品がお手元に届くのはエンドユーザー、単純にキレイな箱だけでなく、手元に届いたときにパッケージがどんな状態であるかがとても重要です。

また箱本体だけでなく、箱の内装（ゲス：商品を納める部分）も重要です。素材も紙やウレタン、サテン張りなど、中身の保護や商品との一体感、ブランド感などから最適なものをご提案させていただきます。



#### (4) 職人の手加工で丁寧に作る

手で触り、手で組み立て、手で確かめる。手を動かすから脳が働く。機械化による効率より、「人の手で作る」ことを大切にしています。私たちは道具として機械を使いますが、紙などの素材を「貼る」という加工は手仕事です。このように手を動かしてモノをつくる人のことを、イタリアでは「アルティジャーレ」といいます。アルティジャーレという概念には、「概念や世界観を作る+美の表現+手を使って思索する」ことを指しています。

# 考える手。

#### (5) ほぼすべての工程が自社内生産

トムソン加工（紙の型抜き）やロゴ箔押しなど一部の加工を除き、貼り箱の製作工程や仕上げは、すべて自社内の職人が行っています。社内で各加工工程の品質管理を行っていますので、貼り箱の仕上がりにご安心をいただけます。中小企業から国内大手企業はじめ、世界的なラグジュアリーブランド、テレビメディアなどからもご相談やオファーをいただく信頼性を有しています。

#### (6) クリエイターとの連携

弊社 HP およびサイト内の各種コンテンツは、クリエイターとの連携によりつくられています。製造業でありながら貼り箱のスペックだけではなく、ブランディングやマーケティングの視点から、パッケージのあり方を考えます。また、企業ブランディングのご提案も可能です。

(事例)

<パッケージからはじまるブランディング、高級和包丁ブランド> 海外展開へ和包丁の新ブランド戦略

高級和包丁のブランド開発でチームを組んだ、弊社のブレンでもある田中有史氏と浪本浩一氏。

Creators' Network #2

田中有史  
田中有史オフィス代表  
コピーライター・クリエイティブディレクター

田中さんと話していると、自分がアップデートされているという感覚があるんです。(村上)

互いの第一印象は？

村上さんには、天性のプロデュース力があるんじゃないかな。(田中)



コピーライター  
クリエイティブディレクター  
田中有史氏(田中有史オフィス 代表)

Creators' Network #3

浪本浩一  
ランデザイン代表  
アートディレクター、グラフィックデザイナー

ふたりのお付き合いは??

うちのクリエイティブの歴史です。(村上)

なんだかんだで、2007年からですね。(浪本)



アートディレクター  
グラフィックデザイナー  
浪本浩一氏(株式会社ランデザイン 代表)

## (7) どんな人間が作っているのか？

### <箱 BAR>

貼り箱ディレクターである村上誠（村上紙器工業所 代表）と親交のあるクリエイティブに関わる方が、パッケージやデザインに関するアイデア、視点、果てはお互いの考え方や生き方について語ります。代表の村上誠とその制作スタッフによって、私たちの貼り箱はつくられています。





# パッケージは、ブランドイメージを売っている

広告が商品のブランドイメージを売っているのと同じで、商品／製品パッケージは中身を売ると同時に「ブランドイメージ」を売っています。iPhone やティファニーのパッケージは、その典型です。その箱代は商品の代価と同時に、ブランドイメージの代価でもあります。

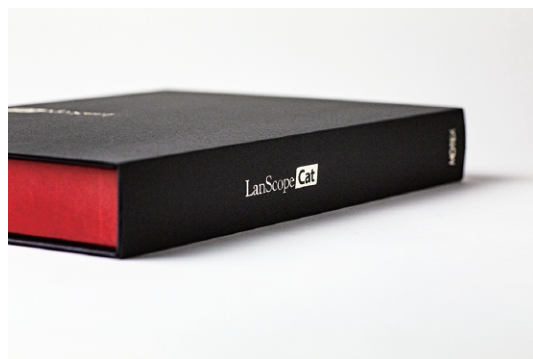


弊社で代表的な事例の一つとして「業務用セキュリティ・ソフトウェアのパッケージ」があります。こちらは、ブランドのリニューアル（リブランディング）案件からお話をいただいた製品パッケージ／化粧箱です。

お客様は今までのブランドイメージを刷新し、新たな顧客や市場を開拓したいと考えておられました。そこで、このリブランディングには「上質感」というテーマがありました。「上質感」は高級感とは少しニュアンスが違うために、私たちは出来るだけシンプルで美しいパッケージデザインを考えました。

このパッケージで市場に投入されると新規顧客開拓にも成功し、パッケージを変えたことで売上が約二割、数億円アップしたそうです。もちろん総合的な視点でリブランディングをしていますが、パッケージによって上質感という新たな「ブランドイメージ」を売ることになったのです。

パッケージは、カタチのあるモノ（商品）以外に、「ブランドイメージ」という目に見えないものも売っているのです。そう考えると、商品パッケージ＝包装資材＝「コスト」とは違う見方（価値観）ができると思います。単なるコストではなく、ブランドへの投資でありブランド資産なのです。



それは消費されて終わり（コスト）ではなく、ブランド資産（ブランドエクイティ）として積み重なっていきます。

今までとは違う視点で、パッケージ／パッケージデザインを感じてみてください。

ぜひ、工場へお越しください。

プロのパッケージプランナーと貼り箱や紙サンプルをご覧いただきながら、仕様やパッケージデザインについてご相談いただけます。

実際のサンプルを、見て触って実感してください。

弊社の工場にお越しいただくと、貼り箱や紙のサンプルをご覧いただけます。

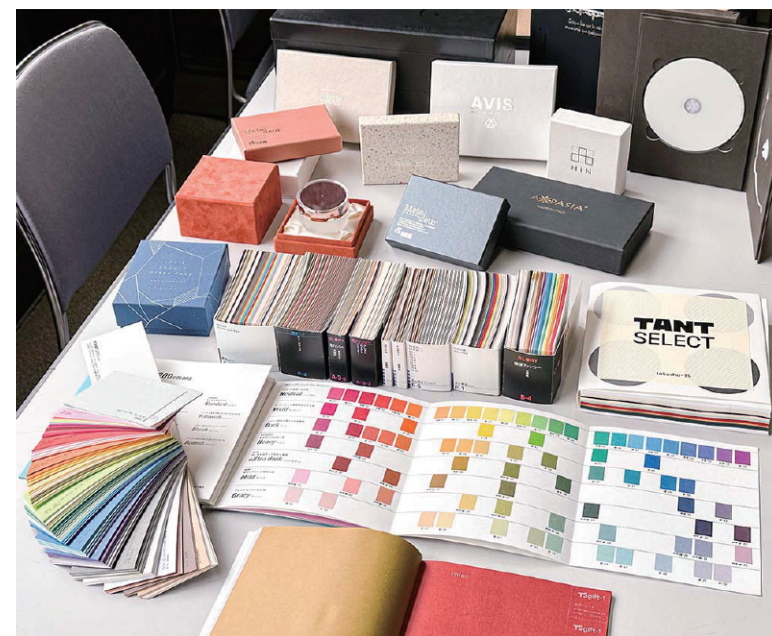
貼り箱は、いままで製作した様々なタイプの形状や素材を使ったサンプルが数多く揃っています。

また紙素材はとて種類が多く、例えば同じ赤でも紙の種類や色タイプによって、すべて微妙に色や紙の質感が異なります。

HP上の写真ではディテールはわからないため、実際の紙サンプルを見て触っていただくことをお勧めします。

貼り箱については、実物を手にとってご覧ください。

実際のサイズ感や素材感、手に持った時の重さや固さ、色などは中々わかりません。弊社工場ではこれらのサンプルをオープンにしていますので、思う存分様々なものをご覧いただくことが可能です。



# 村上紙器工業所の取引実績

## 制作実績の一例

総合警備保障株式会社近畿警送支社 / 株式会社シバックス / アネスト岩田株式会社 / ファナック株式会社 / シャープ株式会社 通信システム事業本部デザインセンター / 大阪府商工労働部商工振興室 / 積水化学工業株式会社 環境・ライフラインカンパニー / 株式会社中川政七商店 / 株式会社をくだ屋技研 / 株式会社三英商会 / 廣川株式会社 / 東洋物産株式会社 / 大阪樟蔭女子大学 / ダイニックジュノ株式会社 / スポーツクラブ NAS 株式会社 / 株式会社 CROSS-ZERO / ハタノワタル / 株式会社ウエスト / 株式会社レーザー計測 / 医療法人石倉歯科医院 / 株式会社福井 / 株式会社角長 / はぎわら歯科クリニック / 日本経営ウィル税理士法人 / エイブリィ・デニソン・ジャパン株式会社 / ディレクションミグ株式会社 / 株式会社スピッカート / Tobutsu America Corporation / 株式会社八木アートマネジメント / ヴィジュアル計画 mare / 株式会社ゼペットデザイン / LEXIA Inc. / エイブリィ・デニソン・ジャパン株式会社 / カシミヤ・キャメルヘア工業会 / langDesign co.,ltd / DRIVE,inc. / Zanden Audio Systems Ltd.



# 代表プロフィール

貼箱ディレクター  
貼箱ブランディング・プロデューサー  
コミュニケーション・ディレクター



大阪市内の工業高校（電気科）を卒業後、NHK 大阪放送局技術部に勤務。  
テレビのエンジニアとして送信技術業務、おもに近畿管内にあるテレビ放送中継所（サテライト）の保守・運用管理。  
及び、放送衛星（BS 地上設備）の運用管理に従事する。  
退職後、保育園で保育士として働き、障害児保育などにも関わりました。

その後、カナダのバンクーバーに渡加。皿洗いやウエイター、カメラマン（日本人観光客の集合写真を撮影）などを一年半経験しました。

帰国後、印刷ブローカーや技術力の高い同業者で約 4 年間修業。

それら家業を継ぐまでの様々な経験、いわば「寄り道」が私自身にいろいろな価値観や視野を持たせてくれたと思います。

貼り箱を通して、企業ブランディングをプロデュースすることが私たちのミッションです。

業界の枠にハマることなく異業種の方々とのお付き合いを通して、今までの「貼り箱（はりばこ）」とは違った「価値」を見だし、それを伝えていきたいと考えています。

特に、デザイナーやクリエイターの方々と交流し、展示会や作品制作などのコラボレーションにより、「デザイン」や「感性」を重視した「貼り箱作り」を目指しています。